

2022年12月9日
九州旅客鉄道株式会社

JR KYUSHU IR DAY 2022 開催にあたって
(代表取締役社長執行役員 古宮 洋二)

今年の4月に社長に就任しました古宮です。IR DAYの開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染が初めて確認されてから、3年が経とうとしております。この3年間、日本・九州の社会経済はもちろんですが、当社グループも非常に大きなダメージを受けています。

私は、この状態から脱していくためには、企業も従業員も「元気」になることが大切だと考えており、従業員のやる気をもう一度引き出していくための取り組みを進めていきたいと考えております。

今期のJR九州グループの経営状況について、先日、中間決算を発表しました。第1四半期の収入は比較的好調に推移しましたが、第2四半期に入ってから、新型コロナウイルスの第7波の影響で収入も低調に推移しました。結果として中間決算では黒字にはなりましたが、決して調子が良いという状況ではありませんでした。しかしながら、9月23日に西九州新幹線が開業いたしましたし、全国旅行支援等も始まり、10月・11月と収入は復調してきております。鉄道事業における中長距離の鉄道旅客取扱収入もコロナ前比で約8割、駅ビルテナント売上はエリアによって多少の差はありますが、概ねコロナ前の水準に近づいております。一方で、第8波という話もありますので、引き続き状況を注視しながら事業運営を行ってまいります。

さて、今期から開始した中期経営計画で、この3年間で「成長軌道への復帰」を果たす期間としております。利益についても、コロナの前に戻すということで、前中期経営計画の最終年度である2021年度の営業利益目標570億円と同じ金額を、2024年度の目標として決めました。2025～2030年度は「持続的な成長の実現」をしていく期間としており、今回の中期経営計画期間はそのベースとなる大切な時期だと認識しております。「持続的な成長の実現」のためには、鉄道事業における安全投資や不動産等の成長投資を継続することが必要ですし、人への投資も非常に大切です。また、事業としては新技術を活用した未来の鉄道をどう作っていくのかも重要ですし、環境問題への対応等も含め、この中期経営計画中に解決に取り組むべきたくさん課題があると認識しています。

そのような中で、9月23日に西九州新幹線が開業しました。現在、長崎エリアには大変多くのお客さまに来ていただいております。九州新幹線がコロナ前の約8割のご利用に留まる中で、西九州新幹線はコロナ前比で100%を超えている状況です。特に週末に

は非常に多くの方に佐賀・長崎地区を訪れていただいております。いかにこの西九州エリアにおける開業効果を長続きさせるかが重要と考えており、そのためにも約1年後に控えている長崎の駅ビル、嬉野温泉における旅館、さらには長崎でのマリオットホテルの開業を成功させていく必要があります。また、2023年の春には福岡市地下鉄の七隈線延伸もありますので、福岡都市圏にも積極的な投資を実施していきたいと考えています。

従業員・人材への投資にも力を入れていきます。社長に就任した直後は参加すべき行事が多く、従業員との意見交換会に出る機会がなかなか得られませんでした。最近では積極的に行っておりますし、今後は幹部社員を含め、コミュニケーションを活発化し従業員のやる気・元気を引き出していきたいと考えています。新しい人材戦略の構築も含め、JR九州グループが更に元気になるように、ひいては、九州全体が元気になるように取り組んでまいります。

最後になりますが、IR DAYは投資家等の皆さまから幅広い知見に基づいた意見をいただける我々にとっては多くの気づきを得られる貴重な場です。この場で出たお話については、取締役会はもちろん、社内で広く周知していく予定です。

本日は、未来の鉄道、長崎駅の周辺開発に加え、CFOからESGの進捗状況について発表させていただきます。また、後段には社外取締役と投資家の皆さまとの対話の時間を用意しておりますので、忌憚のない意見をお聞かせいただければ幸いです。本日はどうぞ宜しくお願い申し上げます。